

ほろ酔いインタビュー●佐佐木幸綱文遊録●

2024.4.8 於・佐佐木

〈第24回〉一九九二年(平成4年)〈

「高見順賞」の選考委員に、坂口弘を見出す、NHK教育テレビ「NHK教育テレビ」「歴史街道」に出演、『若山牧水全集』の監修
「古典への招待」に出演、

佐佐木幸綱十墨君剛仁・加古陽・奥田じ羊・久松洋一・高山邦男・佐佐木頼綱・森部信次

十佐佐木朋子

記録作成 森部信次

▽「高見順賞」の選考委員に

高山 九二年に高見順賞の選考委員に就任されました。高見順を知らない読者もいらっしゃると思うので、どのような賞だったんでしょうか、

幸綱 高見順(一九〇七〜六五)は詩人・小説家で、日本近代文学館の初代理事長を務めた人だった。その高見順を顕彰して、その年に刊行された一番優れた詩集に高見順賞を贈るんですね。現代詩壇での最高の

賞だったと思います。僕が選考に関わったのは九二年の第二十二回からです。

加古 このときの選考委員が、幸綱先生と那珂太郎さん、中村稔さん、丸谷才一さん、座長が詩人の安藤元雄さんでした。何か選考のことで覚えていらっしゃることはありますか。

幸綱 特に覚えていないな。

加古 中村稔さんとは今もお付き合いがありますよね。丸谷さんともお付き合いがあったのですか。

幸綱 丸谷さんは河出書房の頃からよく知っていました。

第二十二回は、佐々木幹郎の『蜂蜜採り』という書肆山田から出た詩集が選考され、授賞式の時、彼が外国に行っていて出られないので、かわりに双子の兄弟が来た。ちよつと珍しい話だね。蜂蜜採りというのは日本の話じゃなくて、外国のどこかの断崖絶壁に蜂の巣があって、その崖を命がけで降りて行って蜂蜜を取るといふのを詩にしたのがメインの詩集だった。佐々木幹



郎君にその話を聞いた記憶があります。
加古 佐々木幹郎さんは前川佐美雄賞の選考委員をやっておられましたね。
幸綱 それは僕が前川賞の選考委員を頼んだからです。
久松 少し調べてきました。高見順賞は二〇二〇年に第五〇回で終了しました。そ

の年の中日新聞九月一日夕刊に、第一回受賞者の吉増剛造さんのコメントが載っています。「小説家や歌人も選考委員になるなど、詩壇を超えて、文壇に大きな足跡を残せたと思う」とありませぬ。

歌人では幸綱先生と馬場あき子さんが選考委員をされて、第四〇回では岡井隆さんの詩集『注解する者』が受賞されています。

森部 第一回は吉増剛造と昨年亡くなった三木卓が受賞したんですね。

加古 三木卓さんは河出書房で同僚だったんですね。

幸綱 そう。高見順賞は選考のシステムがよくできていました。回を重ねるにつれて確立されていった仕組みです。選考委員は五人ですが、原則一人は現代詩とは違うジャンル

の人が入ります。作家・評論家・歌人・俳人の選考委員です。任期は五年で一年ごとに順繰りに一人が退任して、新しい選考委員が一人入ります。したがって、五人の選考委員は毎年、一人ずつ変わっていくわけです。そして、五年目の方が任期最後の年に座長になるというシステムでした。先生も座長をやっておられます。

幸綱 忘れたな(笑)。面白いのはね、賞状は布に貼ってあるんだけど、その布は高見順の着物の一部だったらしい。高見さん

の着物から作るから限りがあって、五〇回で廃止になったのは着物のストックがなくなっただけだと聞いています。高見さんはかなり着物を持っておられたから、いいアイデアだったよね。ちょうど五〇回で終わったわけだけど、没後五十年というのはその人が忘れられる時期でもあるんですね。

黒岩 それとはレベルが違いますけど、跡見女子大の学長をされた「心の花」の先輩の伊藤嘉夫さんの歌集の奥付にも布切れが貼られていて、それが伊藤さんの着物だったという話もありました。

森部 九三年に『群青、わが黙示』で受賞した詩人の辻井喬は、西武百貨店やバルコなどセゾングループを率いた堤清二さんですよね。

幸綱 財界の人とは知り合う機会が全くないんだけど、堤清二さんだけは何度かお目にかかりました。

奥田 どんな人でしたか。

幸綱 経済界では偉い人だったんだろうけど、僕からすると、セゾン美術館をつくるなど文化に非常に理解がある人という印象で、よく堤さんが企画された文化的な会に呼ばれました。

▽坂口弘を見出す

高山 先生が坂口弘さんを見出したのもこ



の頃です。ね。
加古 概略的な話をすると、朝日歌壇に初めて坂口さんの歌が掲載されたのは八九年の五月で島田修二さんの選でした。十二月に「死刑囚と呼ばれるよりも呼び捨ての今がまだしもよろしかりけり」が入選し、それが幸綱先生の選でした。当時、坂口さん

は上告して最高裁で死刑が確定する前で、「動揺する気分をうたっている」と歌集『常しへの道』の解説に書いておられます。九三年に死刑が確定して朝日歌壇への投稿は途絶えますが、それから九年後、お母さんを通して歌をチェックしてほしいと、年に三百から四百首を送ってくるようになったそうです。以来、先生が面倒を見る形になるわけです。

坂口さんは几帳面な人のようで、『常しへの道』の解説には「黒のボールペンで書かれた投稿葉書には、小さく赤い検閲の印が押されていた。一点一画をおろそかにしないきつちりとした四角い字で、作者の几帳面な性格をあらわしているように思われた」とあります。実は、私は坂口さんのお母さんにお会いして記事を書いたことがあって、坂口さんからの手紙を見たことがあります。本当にものすごく几帳面な字を書く人ですよ。

幸綱先生から歌集の刊行を目標にしてみませんかと提案されて、坂口さんがその気になったというんですね。

幸綱 坂口君はすでに第一歌集を出していた。その仕上がりが非常に不満でね、編者に勝手に直されたりなどいろんなことがあったらしい。その後「心の花」に入ってきて、第二歌集は俺がちゃんと読んで、選

歌して出したんだと思います。
加古 先生は坂口さんの『常しへの道』と『暗黒世紀』の二つの歌集に協力されたわけですが、それは無償のお仕事だったんですね。

幸綱 最初は俺が出版費用を出すことにしたけど、彼の歌集はある程度売れるから出版社がついたし、出版社もちゃんとペイしたんじゃないかと思えますね。

▽NHK教育テレビ「古典への招待」に出演
奥田 今日持ってきたのは幸綱先生が出演されたNHK教育テレビの「古典への招待」の〇二年のテキストです。僕はこの番組を九七年と九九年に担当しましたが、まさに運命の番組でした。九九年に短歌研究新人賞の次席になりましたが、ちょうどその時に番組を担当していたので、収録に



来られた先生に「何だ君じゃないか」って声をかけていただいたんです。新人賞でも評価してくださったのが先生だったこともあって、「心の花」に入りました。「古典への招待」はすごくいい番組で、講師の先生方も本当に素晴らしい方ばかりでした。

黒岩 幸綱先生はオランダから帰ってたら髪を生やしておられた。だから髭のあるなしで、オランダ以前と以降とわかります(笑)。

奥田 「古典への招待」の朗読は加賀美幸子さんが担当されていて、講師の先生方は三田村雅子さん、神野藤昭夫さん、川平ひとしさん：

幸綱 対談をしたんだよね。
奥田 対談というかストリートトークだったですよ。幸綱先生が和歌を担当されて、「源氏物語」は三田村雅子さん、「徒然草」は川平ひとしさんでした。



黒岩 川平さんは全国大会にも来ていただいたことがあるんですよ。

奥田 二〇〇六年に川平さんが亡くなられたときに幸綱先生がすごく悲しい顔をされたことをよく覚えています。番組出演者は早稲田とか跡見の先生が多かったんでしょうか。

幸綱 川平くんは早稲田にも籍があっただけ跡見の先生でした。三田村さんはどちらでもないけど「平安朝物語」の三谷菜一君の奥さんだった。

奥田 神野藤昭夫さんも跡見でした。
幸綱 神野藤くんは、つい一週間か十日ぐらい前(二四年四月)に『知られざる王朝物語の発見 物語山脈を眺望する』という長いタイトルの厚い単行本を出した。

奥田 そうですか、やっぱり研究者として先生と繋がりのある方々が…。

幸綱 そんなに、ないよ。
奥田 川平さんとはどういう関係でしょうか。

幸綱 早稲田の先輩後輩。彼は窪田章一郎研究室にいたんじゃないかな。

森部 じゃ、森朝男先生と同じ頃ですか。
幸綱 いや、川平君はもっと下。早く死んじゃったけど。『心の花』の会にも何度か来てくれた。(しんみりと)。

朋子 川平さん？あの人は藤平春男先生の

門下です。

奥田 中世和歌文学のご専門でしたね。
森部 朋子さんも藤平先生の門下ですよ。
朋子 そう、川平さんとは先輩後輩です。
高山 奥田さんが「古典への招待」にこれほど関わっていたというのは知らなかったな。

奥田 はい、あの番組があつて今の自分があります。
幸綱 六回か七回の番組だったよね。文庫にならなかつたかな、俺の出演部分が。



奥田 僕の頃は、先生の和歌は四回になっていて、万葉集二回、古今、新古今が一回ずつでした。

幸綱 この番組の内容がNHKブックスとかならなかつたかな。

奥田 基本的には高校生向けの講座番組だったんだけど、高校生だけでなく文学好き、古典好きのファンがすごく多かつた。久松 高校生向けの講座だったんですね。

奥田 はい、元々は通信教育「高校講座」の中の「古典」だったのですが、途中から一般教養的な番組になっていきました。一年間それを視聴すると、ほぼ日本の古典文学がわかるという。

黒岩 だから最初に時間割表みたいなのが載っているんだね。

▽NHK教育テレビ「歴史街道」に出演

高山 次は、先生が九二年にオランダに行かれたお話です。

幸綱 オランダのことは結構話すことがある。初めての外国住まいで一年間、家族四人で過ごしたんだから。頼綱が中学に入ったら、面白かつたけど大変だった。資格は早稲田の在外研究員。オランダのライデン大学に一応、席をおかせてもらった。

加古 頼綱さんは、中学校で一番小さかつ

たとか。

頼綱 オランダの学校の日本人生徒の中ではそうでした。日本でも前の方でしたが、オランダの日本人はみんな大きかつた(笑)。

幸綱 面白かつたのはね、頼綱のオランダでの日本人学校の担任の先生が、ずいぶん経ってから鈴鹿市の石薬師小学校の先生として逢つたこと。「お久しぶりです」とか挨拶をされて驚いた。

オランダの話はいっぱいあるから、次回にじっくり話そうかと思う。

高山 ぜひお願いします。頼綱さんも次回必ず出席してくださいね。

ところで、先生は「古典への招待」の後、NHKの「歴史街道」にも出られたそうですね。

加古 「歴史街道」に出られたときが、髭を生やしてから初めてのテレビ出演ですね。

幸綱 「歴史街道」って何だっけ。

加古 三輪山に行かれた。

幸綱 そうか、あの番組は大変だった。朝早く午前四時前からの番組だったから、前日から泊まつてね。

奥田 生放送ですね。

幸綱 もちろんそう。朝の四時頃から九時ごろまで五時間ぐらしかつたかな、三輪山の上まで登つた。その後、大神神社にも



行つた。大神神社はお酒の神さまなんだね。境内にざあーっと日本酒の樽が並んでいるわけ、四、五段積まれて、もちろん中味はなしだけど。宮司さんにお酒はいっぱいあるからいくら飲んでいいですつて言われ、朝からずっと飲まされた。三輪山の普通の人が入れない聖なる神域にもカメラと一緒に入つた。不思議な体験だったなあ。

久松 一つ伺いたいんですけど、聴衆目の前にして話す講演会に対して、テレビやラジオのように見えない相手に話す場合、何か心がけていらつしやることはありますか。

幸綱 特に変わりはない。僕はテレビのはしりの時代からだから、今の人とは違うんだらうと思うけど。講演など聴衆がいっぱいいるときは反応が気になるからサービスしたり、受け狙いをしたりするけど、テ

テレビはそういうことは考えないな。今はテレビでもいろいろ受け狙いを考えてやっているんだろうけどね。昔は受けなくてもいいやという感じでやったよね。

高山 僕は先生の万葉集講座に出ていますから、先生は聞いている人の反応を確かめながら講義を進めておられますよね。

幸綱 だって寝てる人がいっぱいいたら嫌じゃないか(笑)。

高山 先生の授業で寝ている人いたかな、みんな起きてましたよ(笑)。



幸綱 昔、青野季吉という有名な文芸評論家はノートを読むだけの授業をする典型的な人だった。読むだけの人の授業は眠くなるよね。それはいかんなど思っただけ授業をしてた。

高山 僕の印象では、先生は一時間ぐらい経つと皆が興味を持ちそうな話を入れて気分を変えて、残り三十分のフィニッシュをかける流れが多いと思います。

黒岩 頼綱さんも経験しているだろうけど、テレビは時間の枠があるから脱線しにくいつていうのはあるよね。台本通りつていか決められた時間でやんなきゃいけないので。講演では聞いている人の反応を見て受けてないなと思っただちよつと面白いことを挟むということはするよね。

頼綱 僕が講演を始めたときに幸綱から教わったのは、聴衆の皆は一つか二つのことしか記憶に残らないからそこだけを頑張られて。あとはムード、掴みだけ頑張っておどは大事なことを一つか二つだけ言えばいいと言われて、だいたい気が楽になりましたね。

加古 頼綱さんのテレビっていじられてたんですよね。

黒岩 小島なおさんに突っ込まれたりね(笑)。

奥田 頼綱さん、恥ずかしそうにされてる

んですよね。それがかえってよくて「心の花」に若い人が増えてきました。

森部 短歌をやらないうちのかみさんもファンです(笑)。

久松 母(博子)も毎回、楽しみにしていたようです。

高山 頼綱さんの最大の魅力は優しさだとはくは思います。

黒岩 定綱さんはたぶんお兄さんの番組を見ているから、もうちよつと突っ込まれにくい形にした方がいいかなというわけで、少しやんちゃな部分を見せたりしてね。

幸綱 定綱は頼綱のテレビを一度か二度見たかもしれないけど、ほとんど見てないんじゃないかね。

黒岩 いや、僕はすごく研究したと思うんですけど。



幸綱 いや、見ないと思うよ。俺だって二人の出ている番組なんか見ないよ、自分の番組だつて見ないな。

黒岩 朋子さんは、見てるのですか。

朋子 録画はしていますよ。

黒岩 そりゃ、母親としたら見ているでしょう。

朋子 なぜ見なきやいけないの。記録を残すために録画はしますよ。私はあんまり見ないんです。いろんな人から二人のキャラクターが違つて面白いいという声はよく聞きます。

高山 違うという指摘はいいね。個性が立っているということだから。

幸綱 ここ三年ぐらいでテレビが全然変わった。よく見た顔がいなくなつて見たことない顔ばかりだろう。その方が安あがりなんだね。昔はテレビに昨日の顔がまた出てるとつていう感じだつたんだけど、今は何となくチャラチャラして五分くらいで次の話題に行つちやうというさ、本当に見慣れた顔が出なくなつたよね。

黒岩 やたら食べる番組が多くなつた。肉汁がジュツと出て美味いですなんて食レポつばいのが多くなつた感じはするよね。
加古 その方が安く作れるし、もしかしたら店からお金を取るケースもあるかも。ドラマとかドキュメンタリーをちゃんと作る

うとするとお金と時間がかかる。テレビ局に手回しまかける体力がなくなつてきていて、よりお手軽な方向に走っているんだと思います。

森部 番組に店を紹介するPRコーナーディネーターという商売があつて、仲介料を店から取つています。じゃないとオープンしたばかりの店がテレビに登場するわけがないんで。

幸綱 やたらに食べ物番組が多くなつているのは、スポンサーの関係があるらしい。
黒岩 絶対ありますね。

▽『若山牧水全集』の監修

加古 そろそろ『若山牧水全集』の監修についてやりませんか。

高山 やりましょう、せっかく重たい牧水全集を持つてきたんだし（笑）。

奥田 これ大変ですよ、第一巻が九二年十月、最後の補巻が九三年十二月の発行です。全十四冊を一年間少しでまとめて刊行するというのは。どういうきっかけで編纂を始めたのでしょうか。

幸綱 牧水はね、今考えとびつくりするぐらい人気がない時代が続いた。一九二八（昭和三）年九月に数え年四十三歳で死にますね。その後、ずっと牧水の人気は低迷していた。弟子だつた大悟法利雄さんの研

究が出ていましたが、七四（昭和四九）年十月に大岡信さんの書き下し詩人論『今日も旅ゆく・若山牧水紀行』が平凡社から出ます。この本が牧水人気復活のきっかけをくれるんですね。

この本が、牧水の奥さん・若山喜志子さんのことなども詳しく紹介した。牧水の鎌が入つてなかつた部分にも鎌が入りはじめたわけです。NHKがそれに乗つて一時間番組を二回だか三回だか連続のドキュメンタリーを作つた。

NHKの「近代日本の群像」というシリーズだつたかな。大岡さんの推薦で僕にご指名があつて、その番組で宮崎や千葉県の根本海岸などにロケに行つた。俺にとつては初めてのテレビ・ロケだつたんだと思ひます。そのとき宮崎に初めて行つたんじゃないかな。そこで伊藤一彦君とか宮崎の志垣澄幸、浜田康敬君ら何人かの歌人に初めて逢つたんだと思う。

大岡さんの本があつて、NHKの牧水の番組があつて牧水が復活し、それから伊藤一彦君が力を入れた仕事をしてくれて、牧水が注目されるようになるんです。その流れの中で、九二年に全集が出ることになつた。ですから、僕がやつたのはたぶん九〇年代の頭ぐらいかな。

久松 『牧水賞の歌人たち 佐佐木幸綱』

に収録されている、「牧水とわたし」にその辺の話は書いてありますよね。「もう二十年以上むかし、これもNHK教育テレビで、たしか「近代日本の群像」というシリーズものななかで牧水をとあげた。四十五分・二回だったかと思う。」とあります。

黒岩 そうすると、受験指導で有名なZ会（増進会）から全集出版の声がかかったんですか。若山旅人さんと大岡信さんと幸綱先生が監修されたんですね。

久松 Z会の本社は静岡県ですよね。牧水は沼津に住んでいたから、おそらくその関係で全集刊行の話があったのでしょね。

幸綱 Z会のことは僕は詳しくは知らないけど、Z会も大岡さんの出身地も、静岡県の三島だね。

久松 牧水全集には、Z会の六〇周年記念事業と書いてありますね。

加古 Z会がスポンサーになったってことですな。

黒岩 これは余談になっちゃうけど、僕は



啄木が短歌を始めるきっかけだったから、牧水にそれほど親炙しているわけじゃないんだけど、やっぱり幸綱先生が編者で牧水全集が出たっていうことで、これは買っとくべきかなと思っただけです。それで増進会出版に電話して、私は短歌結社「心の花」に所属していて、佐佐木幸綱に繋がるものなんだけれど、牧水全集を買いたいので著者割引とかあるのですかと聞いたたら、ああそうですかと全然確かもせずに五%引きで売ってもらった（笑）。

幸綱 著者割引は二割引きぐらいだよな。

加古 普通は二割か三割引きです。

黒岩 しかし、本屋に注文したら定価なんだから五%引きでも…。

奥田 この全集は不思議な構成になっているんです。普通は歌集が何巻まで、随筆が何巻まで、書簡が何巻までとなっているのですが、この全集は編年体で同じ時期に書かれたものが並んでいる。歌と随筆と書簡が年ごとに編集されているんですね。そのときの牧水の状態はわかりやすいんだけど、歌集から歌を探るのが難しい面もあります。これは誰の立案でしょうか。

黒岩 やっぱ大岡さんかな。

奥田 先生はそのときオランダにいたわけだから。

高山 僕は、幸綱先生が新たに牧水全集を

作られた意義はどういうことかっていうことを伺いたかったんです。どうだったのでしょうか。

幸綱 伊藤君に聞いてくれ（笑）。

久松 牧水全集は、それ以前にも大悟法利雄さんの編集で、改造社と雄鶏社から二回出ていますね。

幸綱 それらの全集はずいぶん誤りがあるんだよ。

高山 伊藤さんの牧水に対する思いというのはすごいですよ。ただ、伊藤さんより早く牧水のことを幸綱先生は書かれていたと思います。

幸綱 何書いたのかな。最初に中公新書か



なんかに書いたのかな。

久松 有斐閣新書の『わが愛する歌人 第一集』(一九七八)に、「牧水論「歌は翼」」を書かれていたと思います。

奥田 幸綱先生は牧水の人生は「歌をつくること、旅をすること、酒を飲むこと」にのめり込んだ人生で、「脱日常の方法」の象徴として鳥の歌に着目して、「牧水は鳥になりましたか?」と論じたいか」と論じたんです。

加古 今回は宮崎の全国大会にまでは触れないのでしたら、九二年に亡くなったゆかりの人だけ紹介したいと思います。五月三十日に井上光晴が亡くなっている。へぼのぼの思いは返る若かりし君と将棋を指しし日のこと(オランダ歌日記6)という挽歌があるんですけど、井上さんに関してはどうなのお付き合いでしたでしょうか。

幸綱 井上さんは、連載小説の原稿をもらいに、お宅にかなりうかがった。うかがって将棋をよく指した想い出がある。彼は将棋が得意だった。今でも覚えてるのは、井上さんは小説をノートに書く。それを奥さんが原稿用紙に書きうつしていた。その原稿をもらうんです。やっぱり原稿用紙に書くとか何枚とか計算しやすいから。そういうことでノートに書いたのを奥さんが見て点検するんだろうと思いますけどね。僕はお宅に行つて井上さんと将棋を指しな

がら奥さんが清書するのを待つている。彼は不思議に魅力的な人でさ、喋りが面白いし、調子に乗って喋る人なんだよね。いろいろ、本当か嘘かわからないような話をして、相手を驚かせて喜ぶような人だったな。彼とは十五歳ぐらい違う。だから年下が面白かったんじゃないですかね。俺は将棋が弱いけど、向こうは強かった。

加古 早指しの将棋だったそうですね。

幸綱 よく分からなかったけど、いつでもよく喋りながら将棋を指していた。声の大きい人でよく喋る人だった。僕が若かったから喋りやすかったんじゃないかな。よく嘘つきだと言われたでしょう、本当も嘘も含めてパンパン喋った、俺の前では。

加古 瀬戸内寂聴さんとの関係については。

幸綱 ほとんど知りません。

加古 井上さんのお墓は寂聴さんのお墓と同じところだそうです。

森部 最後の『全身小説家』が印象に残っています。

奥田 原一男監督のドキュメンタリー映画ですね。井上光晴の小説では『地の群れ』とか『丸山蘭水楼の遊女たち』が記憶に残っています。暗いといえばあの人の小説は本当に暗かった。

幸綱 『地の群れ』は「文藝」に連載したんです。編集者は俺じゃないけど俺がいる

ときに連載が始まった。坂本一亀さんが編集者としてついていた。

加古 また、この時期に「心の花」の重要な先輩三人が続けて亡くなった。九二年に伊藤嘉夫さん、九三年に安藤寛さんと遠山光栄さんです。そして、若くして亡くなった安藤美保さんが九一年でした。

幸綱 この人たちの話をしたら時間が足りないね。それぞれ一人ずつきちんと話したいね。

高山 そうですね、では、次回はオランダのこと、宮崎での全国大会、「心の花」の先輩歌人や安藤美保さんのことなどを中心にお伺いすることにします。

